

地域おこし協力隊の胎内市での役割／胎内市地域おこし協力隊 林 基宜 氏

- 胎内市を選んだ理由は？
全国各地の募集を見た中で総合的に見て胎内市の環境が自分には 1 番合っていると思ったので選びました。
- 外から観て胎内市の魅力・特別なところは？
自然豊かでスキー場やパラグライダー、ビームライフル射撃場、乗馬、カートなど珍しいアクティビティがあることもですが、地域の方が温かく、新しいことにも前向きなところも大変魅力です。
- 一番大事に思ってきたことは何ですか？
協力隊 1 人目ということもありましたので自分のやりたいことではなく、地域から上がってくる課題を当事者と一緒に解決に向けて動くことを心がけてきました。
- 緩衝地帯とは？
ここで言う緩衝地帯とは山との間に集落へ有害鳥獣を近づけ難くするために人の手を加えた場所のことです。間伐、除伐、草刈りなどをして見晴らしを良くしたり、人や飼い犬の痕跡を残すことで野生動物と人を隔てるためのものです。
- 活動期間が 3 年の理由は？
国の制度上、協力隊の活動に係る経費が 1 人につき 3 年まで特別交付税の対象となるため、最長任期を 3 年としています。
- どこまで協力してくれるんですか？
複数の地域住民が抱える課題に対して担当の隊員が仕事として取り組みたいと思い、市役所もすべきと判断したものに関しては期間内、活動の範囲内でどこまででも協力します。個人的なお願い事や企業、団体からの依頼は副業として報酬をいただくことにしています。
- 来て欲しい場合の費用・他・条件があれば教えてください。
受け入れを希望される集落の条件としては、費用負担は基本的になく、集落の同意を得る、取り組んで欲しい課題を明確にする、住む場所（空き家）を確保することが条件となっています。住む場所に関しまして家賃は隊員の活動費から出ますが、住むにあたり必要な工事は大家さんの負担となります。
- 集落の方とどのように活動をすすめましたか？
活動にあたりコミュニケーションをしっかりと取り、課題意識を持つ方を中心に声をかけて進めてきました。費用負担が発生しそうな課題に対しては出来るだけ活動費以外の補助金も取り入れて取り組みにおける関係者の負担を減らせるようにしてきました。

- 学生との取組はどちらからアプローチしたのか？
食農大の学生へのアプローチは大学開校前から先生方とのつながりを大切にし、こちらから集落での取り組みのメリットをアピールしていきました。
- 若者のつながりはどんなことで維持・構築できますか？
外からのつながりは若者が自由な発想で学び、知識を活かし、試せる環境をどれだけ用意できるかが関係の構築、継続には必要なことだと思います。地域内のつながりも集落の大人たちが若者のつながりの場を守り、応援していく姿勢がどれだけあるかで変わってくるように感じています。
- 一言で胎内市はどんなところですか？
胎内市は自然とともに生活するのにバランスが良いところ。四季の表情が豊かで、海も山も川もあり自然を楽しむアクティビティも豊富、雪は降るが豪雪ではなく、ゲレンデも近い。山からの買い物も遠くなく、生活も不便ではないのに山菜などの山の幸も採れ、動植物も豊富などなど。
- 心に残った出来事ベスト3は？
3位 初め集落の人たちの会話が聞き取れなかった。
2位 天然記念物のカモシカが普通にいる。
1位 お米がこんなに美味しい物だとは知らなかった。
- 3年間の活動目標の達成度から自分で点数をつけると何点？
点数は70点です。予想以上に注目はされましたが、課題解決の達成度合いは予想以上に苦戦しています。
- 里の駅いちべえの運営はどのように行うのか？
運営組織を立ち上げ話し合いながら進めています。まずは毎週日曜日午前中に営業をし、認知され売上が上がってくれば時間や日数を増やしていく予定です。
- 坂井集落「いちべえ」は今後どなたが通常・従事していきますか？継続しますか？
運営実行委員会が運営し継続していきます。
- 胎内市に永住する気は？
胎内市への定住は希望しますが正直住む場所と仕事次第ではあります。
- 今後市や市民に求めたいことはありますか？
国が協力隊の人数を増やす方向で進めているうちに多くの地域活性化に興味ある若者を胎内市に連れて来られるように今以上に受け入れ環境づくりを進めて欲しいです。
- 今後胎内市に期待することなどがあったら教えてもらいたい。
県内だけでなく全国的にも地域おこしのモデルケースとなれるよう取り組みを行政、市民が協力して作っていかれたらと思います。

- 胎内市を知らない県外の人に一言で胎内市っておもしろそうと思わせるフレーズをききたい。
今あるもので言いますと 『四季折々の大自然が満喫できるアクティビティ達のまち』